

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 加茂高等学校 学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和7年11月18日（火） 13:00～15:00
- 3 開催場所 加茂高等学校仮設校舎2階会議室
- 4 参加者

会 長	川 合 俊 治	全日制PTA会長（欠席）
副 会 長	松 井 彰 良	ウインズコーポレーション 代表取締役
委 員	今 井 一 彦	司法書士
	尾 関 里 佳	地域代表
	長 瀬 美 佳	定時制教育振興会長
	松 尾 和 樹	可児市議会議員 NPO法人縁塾
	武 市 由紀子	元特別支援学校校長
学 校 側	関 谷 篤	校長
	西 田 智 子	副校長
	佐 藤 智 子	事務部長
	庄 司 幸 宏	教頭
	若 狭 幹 大	教頭
	津 田 健 介	教務主任（全日制）
	服 部 達 哉	教務主任（定時制）
	水 口 智 人	生徒指導主事（全日制）
	武 藤 秀 彦	生徒指導主事（定時制）
	上 野 智 子	進路指導主事（全日制）
	渡 辺 純 也	進路指導主事（定時制）

5 会議の概要（協議事項）

（1）授業参観（全日制）について

意見1：1年生の探究の授業を参観し、いつもながら生徒の学習意欲の高さを感じた。タブレットだけでなく、個人のスマートフォンも使用していた。両方を併用しているのには、何らかの理由があるのか。

⇒ 回線の問題により、一度に多くの生徒がタブレットを使用すると通信にタイムラグが生じ、情報検索が円滑に行えない場合がある。そのため、補助的な手段として個人のスマートフォンの使用を許可している。

意見2：近隣の高校ではスマートフォンの使用を認めていない場合もあるため、社会的なルールとの整合性も考慮する必要がある。一方で、スマートフォンを適切に活用すること自体は有意義であると考え。特に、情報の真偽が曖昧な場合に、批判的に判断し、必要な情報を取捨選択できる情報リテラシーを育成してほしい。

意見3：授業を見て、生徒が楽しそうと感じた。生徒一人ひとりの個性がよく表れる授業だと思う。個性を伸ばすことができる反面、意欲的に取り組まない生徒はそれなりの結果になるのではないかと懸念する。

⇒ 生徒に寄り添いながら個々に応じて伴走し、生徒が『取り組んでよかった』と感ずることができる探究活動になるように支援をしていく。

(2) 学校評価について【全日制】

意見 1 : コミュニケーションに苦手意識がある生徒は、授業や学習がうまくいかない場合、その原因を友人や学校の環境に求める傾向がある。そのため、各授業担当教員が、生徒の承認欲求を満たすような声かけを意識する必要がある。

⇒ 生徒の自己肯定感を高めるため、日常の学習や生活の中で小さな達成を認める声掛けを積極的に行っていく。努力や成長を具体的に褒める言葉を重ねることで、生徒が自信を持って次の学びに取り組めるよう支援していく。

意見 2 : 家庭によっては学校での出来事を話さない場合や、保護者の仕事が忙しく、家族の会話自体が少ない場合もあると思う。そのため学校からの情報発信はとても重要で、特にホームページや一斉配信メールサービスなどを通じて、学校の様子や子どもの頑張りが分かるような工夫をしていただけるとありがたい。

(3) 学校評価について【定時制】

意見 1 : 全日制では、探究活動や地域の祭りなどへの参加を通じて、地域との関わりを持っている。一方、定時制では夜間にこうした活動を設定することは難しいと考えられる。今後、定時制とも地域と関わっていきたいと考えているが、どのようなニーズがあるのかについて教えてもらいたい。

また、全日制で実施している「地域の大人と語る会」を定時制でも実施可能ではないかと思う。

⇒ 先日、家庭科の授業で地域の方を講師にお招きし、防災食づくりに取り組んだ。地域の防災について説明していただき、地域とのつながりを持つきっかけになるとよい。また、生徒が社会に出たときに困らないよう、実生活に役立つ力を身につけることを意識して取り組んでいる。今後も、地域と連携できる取り組みがあれば、ぜひ教えていただきたい。

6 会議のまとめ

今回の授業参観および学校評価に関する意見交換を通じて、次の点を確認した。

全日制では、生徒の学習意欲が高く、ICT 機器の活用も進んでいる。スマートフォンの使用は通信環境への対応であり、情報リテラシーを育成する観点からも有意義である。今後は、生徒が主体的に学び、批判的思考を養う指導をさらに充実させる。

定時制では、夜間活動の制約がある中で、地域とのつながりを模索している。防災食づくりの授業はその一例であり、今後も地域と連携できる取り組みを積極的に進める。窓口を広げ、定時制としても地域と協働できる機会を創出し学校と地域の双方にとって価値ある関係を築いていく。

学校評価においては、生徒の自己肯定感を高めるため、日常的な声かけを徹底し、小さな達成を認める取り組みを強化する。また、保護者への情報発信を重視し、ホームページや一斉配信メールを活用して学校の様子や生徒の頑張りを積極的に伝える。